

業務の実績に関する評価結果の反映状況一覧

公立大学法人国際教養大学の平成30年度評価結果の反映状況

平成30年度評価における指摘事項	評価項目	令和元年度の業務運営等への反映状況
<p>学生の確保については、県内出身入学者数に係る目標未達成が続いており、県内出身入学者数の増加を目指した取組をこれまで以上に積極的に推進することが求められる。</p>	<p>I-2-(1)</p>	<p>○新募集定員でのグローバル・セミナー入試の実施 秋田県内の高校生を対象としたグローバル・セミナー入試の募集定員を10名から15名に拡大して実施した。最終的に、定員15名に対し52名が出願し、22名が合格・入学した。</p> <p>○グローバル・セミナー参加者募集活動の強化 高校の進路指導担当者や進学ガイダンス等を通して、2年生の参加を広く呼び掛けることで、高校生活のより早い段階から本学を進学先として検討する学生の増加を図った。その結果、1回目の2年生参加者数が過去最多の75名となり、より多くの県内高校生に本学の教育を周知することができた。</p> <p>○入学前教育の充実 グローバル・セミナー入試の合格者を対象に、入学前教育として「グローバル・セミナー入試合格者入学前教育プログラム」を10月～2月に4回、EAP教員によるTOEFLテスト受験対策指導及びEAP授業体験1回を実施し、入学後の不安の解消及び入学後に求められる英語運用能力の向上に係る支援を行っていることを大学ウェブサイト上で周知した。</p> <p>○広報活動の強化 秋田空港での広告掲出を通じて本学のブランドイメージや認知度向上を図ったほか、秋田駅東西連絡自由通路での広告スペースを活用して、受験者層をターゲットとしたメッセージ性のある広告やオープンキャンパスの案内等を掲出し、新カリキュラムの告知を行うことで、県内での認知度向上と潜在的な志願者の増加を図った。</p>
<p>大学院学生の確保については、広報活動の強化等により平成30年度の入学者数が募集定員を上回ったことは評価されるものの、大学院全体では収容定員を満たしておらず、引き続き大学院学生の確保に向けた取組が求められる。</p>	<p>I-2-(3)</p>	<p>○大学訪問による広報活動 本学に在籍する大学院生の出身大学を中心に行った他大学での説明会では、教員が在学学生を帯同し、在学生目線からも本学の特長を伝えることで、受験を検討している学生により具体的な学修イメージが伝わるように努めた。</p> <p>○広報活動の強化 大学院のPRポスターを作成し、本学研究科と関連した学部・学問領域を持つ大学20校へ掲示を依頼・配布したほか、大学院説明会や学内外のイベントの際にも掲示した。 また、大学院のパンフレットは、前年度の配布実績をもとに作成部数を増やし、4,500部を発行、資料請求者や来学者等へ配布したほか、本学大学院の専門分野と関連する分野の学部を持つ他大学への送付や教員が個別に大学訪問した際に配布する等、認知度向上を図った。</p> <p>○説明会スケジュールの再編 前年度からスケジュールを変更し、東京での大学院説明会への参加申し込み時期を前倒することで、周知期間を十分に確保し、結果、10月の説明会には12組14名の参加者があった。</p>
<p>年度計画どおり実施していると認められるが、計画に定める教員に対する情報セキュリティ研修の更なる充実に努めること。</p>	<p>III-4-(3)</p>	<p>大型連休前に教職員に対して情報セキュリティに関する情報提供と意識啓発を行った。加えて、新たにFDの機会を活用した本学情報学分野担当教員による情報セキュリティ講習を実施し、平常時における対策等を協議したほか、秋田県警察の協力により、教職員を対象としたサイバー犯罪に関する講習会を開催し、情報セキュリティへの意識向上を図った。</p>